

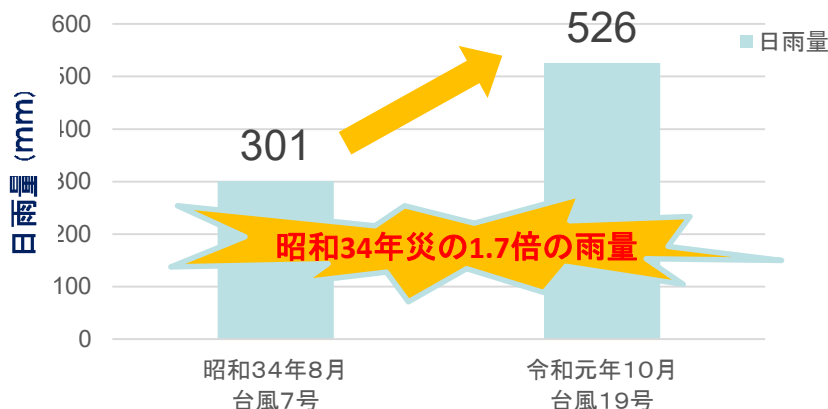
令和元年台風19号における砂防事業の効果

- 多数の死者・行方不明者をもたらした昭和34年8月の台風による土砂災害を契機として、富士川砂防事務所では、これまで管内全体で**約700基の砂防施設を整備**。
- 令和元年の台風19号では、昭和34年災害を上回る526mm/日もの日雨量を記録した※が、砂防堰堤等が整備されていたことにより、下流の人家等が保全された。

※管内における最大値

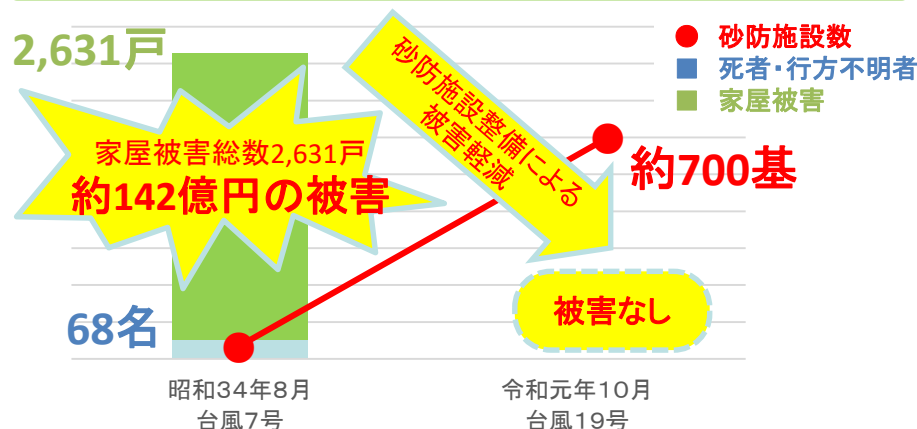
日雨量の比較

※管内最大値での比較

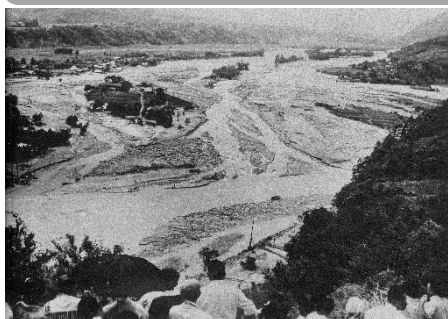


砂防施設整備による被害軽減効果

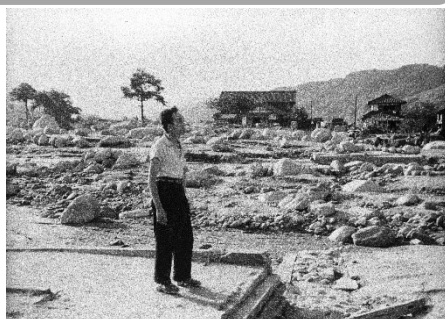
※直轄砂防管内



昭和34年8月台風7号による被災状況



濁流にのまれた牧の原地区
(旧山梨県武川村 釜無川・大武川合流点)



土石流の被災箇所ですらんと立ち尽くす住民
(旧山梨県武川村牧の原地区)

令和元年台風19号時の砂防施設の効果



台風19号前(尾白川第三砂防堰堤)



台風19号後(尾白川第三砂防堰堤)

砂防堰堤が土砂を捕捉